令和6年度 八王子市立第四中学校 学校評価総括

めざす学校像	子ども、保護者、地域、教職員に愛され、誇れる学校
	○確かな学力を身に付けさせる学校　○一人ひとりの良さが伸ばされ、活かされる学校　○信頼関係のある温かい学校　○地域社会と協働する学校

アンケート実施 生徒：11月及び全国学力学習状況調査等　保護者：11月　教職員：12月　アンケート回収率（合計） 71%

知性

生徒（「あてはまる」「だいたいあてはまる」）回答率		
教え方はわかりやすい	74.4	92.4
授業で集中できる	85.0	
友だちや自分の意見が大切にされている	97.2	
生徒に対して、公平に接している	96.7	
本時のねらい または目標を示している	95.9	
自分の学習の取組をきちんと評価している	96.6	
調べたり、考えたり、話し合ったりする場面を授業の中に取り入れている	91.6	
必要に応じて1人1台の学習用端末などのICT機器を活用した授業を行っている	78.8	
質問に答えている	98.1	
黒板にわかりやすく書いている	96.6	
授業を進めるスピードは、ちょうど良い	95.1	
授業の開始時刻と終了時刻を守っている	98.1	
授業中のトラブルにも適切に指導している	97.8	
授業の最後に学習内容を振り返る活動を設定している	91.5	

生徒（「あてはまる」「だいたいあてはまる」）回答率		
意欲をもって授業にのぞんでいる。	97.4	86.3
真面目に授業を受けている。	96.3	
チャイム前に準備をして着席することができている。	97.2	
授業中、すすんで自分の考えを発表している。	59.7	
分からないことは先生や友だちに聞いている。	91.2	
授業中、自分の考えを他の人と共有し、話し合い活動をしている。	89.5	
授業で使う道具を準備している。	97.1	
ノートや提出物、宿題などをきちんと出すようにしている。	91.9	
予習や復習を心がけている。	62.0	
学習用端末を使用した授業は楽しい。	80.8	

教職員（「あてはまる」「だいたいあてはまる」）回答率		
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	91.0	92.9
生徒一人ひとりの学習定着状況の正確な把握と適切な指導・支援	95.0	
生徒一人ひとりの問題解決的な学習の充実を図るための授業展開・組み立ての工夫・改善	100	
論理的思考力、批判的思考力の向上に向けたプレゼンテーション等表現活動の充実	100	
読書センター、情報センター、学習センターとしての 学校図書館の機能の整備と活用	82.0	
「八王子市版 GIGA スクール」の定着による ICT 活用技能の向上	87.0	
必要に応じた補充学習の実施	95.0	

自己評価

学校教育目標「知性」に関する肯定的回答は、59.7%から100%までのばらつきが見られた。
「教え方はわかりやすい」の74.4%は、学校として、教師として25.6ポイントの伸びしろがあると捉え、引き続き校内外の研修等をはじめあらゆる機会を通じて、教師一人ひとりの高度専門職としての授業力向上を図っていく。
同様に、59.7%となった「授業中、すすんで自分の考えを発表している」、62.0%となった「予習や復習を心がけている」についても、授業改善の視点として捉える必要がある。具体的には、すすんで考えを発表して学習を深める授業になっているのか？予習や復習をしたい、することでもって学習が深まる、等の実感をもてる授業になっているのか？等の視点で振り返り、引き続き、あらゆる機会を通じて授業改善を図っていく。
なお、義務教育修了段階で全生徒に身に付けさせる社会生活を営む上で必要最低限の知識・技能の習得を確認するための「はちおうじっ子ミニマム」については、20点満点の18点以上の生徒、第2回で第1回よりも得点が向上した生徒を合わせた結果、国語で85.1%、算数で91.0%だった。

学校関係者評価

先生方も生徒も授業には真面目に取り組んでいるようであるが生徒の授業に対する積極性や予習、復習を心がける姿勢に欠けるようである。また、これは従来からの課題であるが図書館と ICT の活用ができていない。知性、教養の基礎はやはり紙の本を読むことである。それとともに ICT の重要性が高まっている今日、より生徒にわかりやすい授業の推進が望まれる。

公正

生徒（「あてはまる」「だいたいあてはまる」）回答率		
いじめを許さない学校づくりへの取組	87.2	84.4
生活指導への適切な取組	87.2	
将来の進路や職業についての指導	80.8	
仲間をいじめることなく大切にしている	89.2	
自分自身は大切な存在である	76.3	
困っている人をすすんで助けている	87.4	
いじめは、どんな理由があってもいけないと思う	89.9	
自分にはよいところがあると思う	77.2	

保護者・地域（「あてはまる」「だいたいあてはまる」）回答率		
(保)いじめを許さない学校づくりへの取組	82.0	84.7
(地)いじめを許さない学校づくりへの取組	87.5	
(保)生活指導への適切な取組	83.3	
(地)生活指導への適切な取組	93.8	
(保)特別支援教育への取組	77.1	

教職員（「あてはまる」「だいたいあてはまる」）回答率		
人権教育の推進を通して、自他を尊重し、いじめを許さない思いやりのある態度の育成	95.0	96.0
明るく爽やかな挨拶を交わし合う教育環境の整備	82.0	
「認め、励まし、褒め、支える」指導・支援、自尊感情や自己肯定感、自己有用感、信頼関係の構築	96.0	
誰一人取り残さない特別支援教育の充実による「共生社会の担い手」の育成	100	
考え議論する道徳授業の展開と充実	100	
自主的・実践的な集団活動の充実により、主体性や忍耐力の育成、達成感や成就感の感得	95.0	
いじめを許さない学校組織と学校いじめ対策委員会の機能発揮	100	
一人ひとりの多様なニーズに応じた登校支援の充実	100	

自己評価

学校教育目標「公正」に関する肯定的回答は、生徒、保護者で約85%、教職員で約95%だった。「明るく爽やかな挨拶を交し合う教育環境の整備」については、「あまりあてはまらない」が約20%であり、原因を明らかにした上で、具体的な手だてを講じる必要がある。
いじめに関する設問については、「いじめを許さない学校づくりへの取組」が87.5%となり、令和5年度と比較すると7ポイント減となった。本校のいじめの認知件数は、令和5年度の11件が令和6年度に23件であり、令和5年度の継続5件は全て解消した。この結果について、本校は教職員のいじめに対する感度がより一層高まったと自己評価している。保護者との対話等を通してこの原因を明らかにした上で、学校としての取組について説明する必要がある。

学校関係者評価

生徒の「仲間を大切にしている」の評価が高いことは良いことである。その反面、自己肯定感がやや低いと思われる。
ただ、この点についてはこの年代でこれだけの評価があれば良いのではないかとの意見もある。いずれにせよ、他者を尊重にすることは当然のこととして自分自身を大切にすることも忘れてはならない。教職員の評価が高いことは喜ばしいことである。自信を持って指導に当たっていただきたい。
また、特別支援教育への取り組みも進んでいることは評価に値する。

貢献

生徒（「あてはまる」「だいたいあてはまる」）回答率		
人の役に立つ人間になりたい	92.4	77.1
地域や社会をよくするために何かをしてみたいと思う	74.7	
第二小学校と合同で取り組みを行っている	89.2	
将来の夢や希望をもっている	60.7	
学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる	72.1	
四中を誇りに思っている	73.4	

保護者・地域（「あてはまる」「だいたいあてはまる」）回答率		
(地)地域と共にある学校づくりを推進している	100	88.4
(地)子どもは地域を大切にしている	87.6	
(保)子どもは公共物を大切にしている	88.9	
(地)子どもは公共物を大切にしている	91.1	
(保)将来の進路や職業についての指導	84.0	
(地)将来の進路や職業についての指導	78.8	

教職員（「あてはまる」「だいたいあてはまる」）回答率		
義務教育9年間を見通し、地域に根ざした切れ目なくつなぐ系統的・継続的な教育活動	100	100
地域運営学校として、地域と協働した教育活動の開発	100	
地域社会・家庭と教育活動のねらい等の共通理解	100	
多様な教育力の活用とキャリア教育の充実	100	
「地域で・地域とともに・地域を学ぶ」系統性のある郷土学習	100	
危機回避能力の向上と自分の身は自分で守るための防災教育の充実	100	
食育の充実と生活習慣の定着	100	
地域でのボランティア活動等への積極的な参画	100	
学校評価における地域・保護者との対話を通した学校運営の改善	100	

自己評価

学校教育目標「貢献」に関する教職員の肯定的回答は100%となった。内訳に着目すると、各設問「だいたいあてはまる」が45～75%である。校内のみならず、小学校、地域行事等におけるボランティア活動等を広く募集・展開したことが令和6年度の新規の取組だった。
肯定的回答の割合は、教職員、保護者、生徒の順で下がる傾向にあり、学校が実施している教育活動の目的等をより正確に生徒や保護者に伝える必要がある。
生徒の肯定的回答が60.7%となった「将来の夢や希望をもっている」については、設問における「将来の夢、希望」を大きく捉えて過ぎている可能性がある。参考として、市が実施している同様のアンケート調査では「こんなことができるようになりたい、という目標（現在の夢）をもっている」となっている。

学校関係者評価

「人の役に立つ人間になりたい」と思っている生徒が多数を占めていることは素晴らしい。反面、「夢や希望をもっている」生徒が少ないのは中学生の年代ではまだ漠然としているのか、今のことに忙しく夢や希望を考える余裕がないのだろうか。大人の支えが必要な時期であると考えられる。
また、学校と地域との距離が近くなっていることは間違いないが、地域と学校がさらにあと一歩、二歩近づくことで、より地域と協働した教育活動が展開されると考える。

めざす教師像 自己評価

人権尊重の理念を理解し、深い愛情を注ぐ教師	「あてはまる」45%　「だいたいあてはまる」55%　「あまりあてはまらない」0%　「あてはまらない」0%
組織の一員として協働し、職務を遂行する教師	「あてはまる」45%　「だいたいあてはまる」55%　「あまりあてはまらない」0%　「あてはまらない」0%
真摯に研究と収用に励み、教育観を磨く教師	「あてはまる」36%　「だいたいあてはまる」64%　「あまりあてはまらない」0%　「あてはまらない」0%
熱意と使命感をもち、信頼される教師	「あてはまる」41%　「だいたいあてはまる」59%　「あまりあてはまらない」0%　「あてはまらない」0%

自己評価

肯定的回答は100%となった。内訳に着目すると、「だいたいあてはまる」が55%～64%である。「どちらとも言えない」という選択肢があった場合、結果が変化するものと想定される。
引き続き、教師一人ひとりが、高度専門職として、学び続けることのできる機会をつかむことができる研修環境を整備する。

学校関係者評価

肯定的評価が 100%であることは素晴らしい。そう思えるだけの努力と研鑽を積み重ねてきたからこその自己評価であると思う。このまま、自信と誇りを持って生徒に接して頂きたい。